

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 19日		～ 2025年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2025年 2月 19日		～ 2025年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的依存度の高い子どもも積極的に受け入れている。	複数の看護師が勤務しており、1年に1度のフェースシートの聞き取り、指示書、医療的判定スコアの更新で病状の把握をしている。発作時や緊急時にも迅速な対応ができるよう、職員内で情報を共有している。	同様の対応を行って、利用者、保護者様の不安の軽減に努め、看護職員以外の職員も積極的に関わり、観察の仕方、基本的な対応などの学習を行うことで、看護職員の指示のもと緊急時もスムーズに対応できるようにしていく。
2	理学療法士や経験豊かな保育士により専門的な支援を行っている	理学療法士を中心に目標、計画を立て、多職種が携わり、個別性のある機能訓練、療育を行っている。	全職員が同様の視点で機能訓練や療育が行えるよう、外部研修の受講、事業所内研修を実施し、アセスメント能力の向上や専門的なスキルを身につけ、さらに充実した支援が行えるようにしていく。
3	事業所が広く、子どもたちの活動場所が十分に確保できている。	スペースが広いことで、季節に合った装飾をする場所が確保できている。子供が季節感のある飾り付けを楽しむことで、季節のうつろいを学ぶ機会となっている。また、機能訓練や遊びのスペース以外にも医療的ケア児の医療機器を置くスペースやリハビリ器具を保管するスペースがある。そしてスムーズレンの部屋もあり、状態変化時の隔離スペースも確保できている。	さらなる環境整備や整理整頓で今まで以上に子どもが心地よく過ごせる空間としていきたい。また、スペースが広いことを利用した遊びや必要に応じて、きょうだい児や保護者が集う場所としての利用も検討していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他のこどもと活動する機会がない	利用しているほとんどの子どもが感染のリスクが高く、積極的交流を希望されない保護者もいる。また、地域住民とお会いする機会が無く、交流が図れていない。	保護者の意見を聞きながら事業所内会議で検討していく。イベント等がある場合は、保護者様に確認しながら地域の保育所、認定こども園、幼稚園との交流ができるように努めていく。
2	事業所内での保護者会、きょうだい同士の交流の機会がない	家庭環境が様々な為、イベントの参加や交流の機会がとれない	保護者様の意見を聞きながら事業所内会議で検討し、イベントなどを通して家族同士の交流ができるよう努めていく。
3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が保護者に周知されていない。	書面での交付ができていない。保護者様への説明不足。	書面で交付をして改めて説明していく。また訓練は引き続き定期的に行っていく。